

婚活応援企画

《第二回》

《第一回テーマ：最近の結婚事情から》

世はまさに「婚活」ブーム。ドラマにも取り上げられ、出版物も氾濫（はんらん）している。語源は、結婚したいのにできない男女が目的にたどりつくために活動するということだが、言葉だけが一人歩きし、具体的にどんなことをすれば良いのかわからないのが現状ではないだろうか。そこで3回にわたって「婚活応援企画」を展開します。ナビゲーターは日本ライフデザインカウンセラー協会（JLCA）創設者原口博光氏（現事務局長）で、第1回は最近の結婚事情をリポートする。

最近晩婚化、未婚化による少子化が大きな社会問題になっている。厚生労働省調べの05年の平均初婚年齢は、別表の通り。55年当時と比較すると、男性は約3歳、女性は約4歳結婚年齢が高くなっている。

原口氏によるとその多くは「合コンなどはするが、結婚するほどの人がいないと考えている」と指摘する。02年の経済産業省調べのデータによれば「いずれは結婚するつもり」という男性が87%で、女性は88.3%という結果が出ている。82年に比べると男性は8.9%、女性は5.9%下がっているが、約9割の独身男女は結婚を望んでいる。

結婚はしたいができない男女が増えている原因は何なのか。昔は地域や親類などに世話好きのおばさんがいて、適齢期になるといろいろな相手を紹介してくれた。ところが最近人は人間関係や社会ぐるみのつきあいが希薄になり巡り合える機会が激減。職場など出会いに限られるようになっていく。

60年代ころからは恋愛結婚が主流になり、余計に希望する相手を見つげにくくなっている。現在交際している人がいない男性は52.2%、女性は44.7%（JLCA調べ）という結果も出ている。婚姻件数は人口動態統計によると72年の約110万件をピークに、

08年は約72.6万件と減少している。その中で恋愛結婚する人や「非親族の男女同居の者」は増えている。まさに深刻な問題といえる。

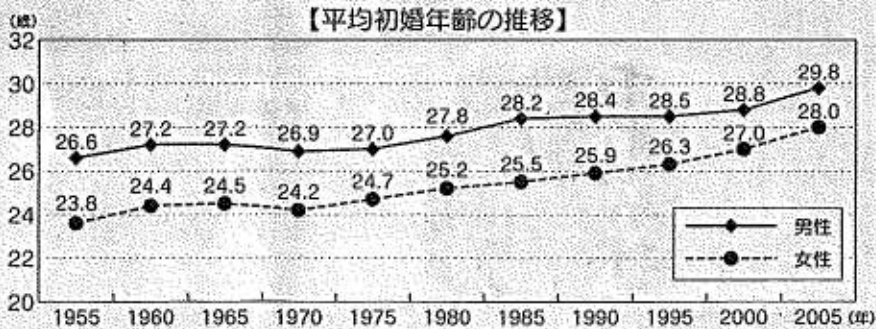
最近「女性が設定するハードルが高くなっている」（原口氏）という。実際は「専業主婦」になることを希望しているが、自分の描くライフスタイルにマッチしない相手に妥協するつもりはないようだ。収入のメドは年収600万円以上で「生活が困窮する相手との結婚ならしたくない」「結婚して趣味や海外旅行をあきらめるなんていや」なのだとか。これに対して男性は経済的に自信が持てないでいる。この条件に合うような25〜34歳の独身男性は35%程度（JLCA調べ）とか。昨今の経済状態ではさらに苦しい。

仕事と家庭の往復では状況は全く変わらないはず。逆にますます結婚しにくい状況に追い込まれていくのでは？明日の第2回は婚活サービスの現状について紹介する。



●●●●●●●●●● 未婚化・晩婚化の現状 ●●●●●●●●●●

右表は平均初婚年齢の推移をまとめたもの。55年は男性が26.6歳、女性が23.8歳だった。当時は見合い結婚が主流で、しかも1回目の本気度が高かったため結論が出るのも早かった。しかし女性の社会進出が進むにつれて、初婚年齢が上がっていく。80年には男性が28歳に迫り、女性は25歳を突破。「恋愛と結婚は別」という考えが強くなり、さらに男女雇用均等法などで男女の賃金格差は縮まり主導権は女性に。最新の資料は05年だが、男性は29.8歳、女性は28歳。これまでの最高齢になっている。この数字はさらに高まっていくと思われる。女性はますます力をつけて一人暮らしを楽しんでいるのに対して、男性は女性が期待するほどの賃金が得られず自信が持てなくなっていると考えられる。女性の設定するハードルはますます高くなり、なかなか結婚には至らないケースが増えるようだ。



◆原口博光氏
元経済産業省サービス産業課係長。結婚情報サービス産業の管轄担当で業界実態を把握している。07年1月に学識経験者らとNPO法人日本ライフデザインカウンセラー協会（JLCA）を設立、現在は事務局長を務める。婚活だけでなくライフデザインの重要性を訴える。